

外来担当医表

土曜日は休診です

※2012年4月1日現在の内容です。
※担当医は予告なく変更になることがあります。

	月	火	水	木	金
午前	中島	松本	村上	田仲	松本
	横田	野本	田仲	藤永	中島
			大石		
午後 予約	佐藤	藤永	大石	村上	佐藤
			百崎	牛島	

病院理念

心を病む人の立場に立った専門的精神科治療の提供を行う
地域への精神科医療の啓発活動を通じて心を病む人のみならず、地域住民の心の健康増進に貢献する

- 地域の様々な資源との連携の強化を目指します
—医療・福祉・教育・産業・地域社会と積極的な連携が出来るように—
- 良質で安全な医療の提供を目指します
—相手の立場に立ち、私達が安心して自分の家族を任せられるように—
- 専門性を高め、より高度な知識・技術の向上を目指します。
—新しい技術・知識の習得、研鑽を心がけるように—

患者の権利

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。
また、他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。



医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142 熊本県熊本市北区植木町鑑田1025
TEL: 096-272-7211 FAX: 096-273-2355

<http://www.koyodai.or.jp/>



当院は、2005年から財団法人日本医療機能評価機構の認定を受け、2010年にVer.6.0で再認定されています。



当院は「情報公開レベル優良施設」として、はとはあと評価（認定3/Stage-1）の第三者評価認定を受けています。

- 日本精神神経学会専門医研修指定病院
- 日本精神科病院協会認定専門医研修病院

こもれび



今号の表紙：デイケア・病棟の患者さんの作品 タイトル「菜の花」

病気のおはなし

アルコール依存症

病棟紹介

北2病棟紹介（精神療養病棟）

向陽台病院の活動紹介

医事課のしごと

こもれびリレーエッセイ

第5回・岩井佑美

そよ風家族会通信

こもれびぶらざり

- ・「Works みらい」のご紹介
- ・向陽台病院フットサルクラブ
- ・寄付の報告

KOMOREBI
2012.Spring
vol.33



医療法人横田会向陽台病院は2013年9月、創設50周年を迎えます。

アルコール依存症

アルコール依存症は、
単なる「飲んだくれ」では済まない深刻な病気です。
まずは専門医へご相談ください。

はじめに

「アルコール依存症」と聞くと、『飲んだくれの親父が家で暴れて、家族が泣いている』ようなイメージを持たれる方が多いと思います。たしかにそのような状況もありますが、これほど理解されにくい病気は少ないのです。つまり、お酒による問題は本人の責任であり、いわゆる「病気」とは思われず人からも同情されません。しかし、依存症に陥ると精神的にも肉体的にもそこから抜け出すことは困難で、多量飲酒により身体を壊すだけでなく、仕事も辞めざるを得ない状況に追い込まれ、さらに家庭崩壊となることも少なくありません。

アルコール依存症とは

それでは、アルコール依存症とはどのような病気なのでしょう？

一般的には、飲酒のコント

ロールができず、本来大切なはずの家族・仕事・自分の身体よりも『飲酒を優先させてしまう状態』とされています。すなわち、お酒を飲むことが自分の最重要課題となっているため、仕事があろうが、家族や他人に迷惑を掛けようが、さらには自分の健康を損なってしまうのが、飲酒を辞めることができなくなってしまうのです。依存症では、常に体内に一定以上のアルコールを維持するために、お酒を飲み続けることになり、はじめは飲みたいからと飲んでいたので、後にお酒がなくなることに苦しさ（離脱症状）を抑えるために嫌々でも飲み続けるようになります。また、アルコール依存症患者は自分の健康を損なうだけでなく、家族や友人にも多大な迷惑をかけるのに、自分は病気であるという認識がなく進んで治療を受けようとしません。

これがアルコール依存症の治療をさらに難しくさせ、結果的に10年で依存症患者の4割の方が亡くなるという恐ろしい病気となるのです。

アルコール依存症の治療

アルコール依存症の唯一の治療は、生涯にわたる「断酒」、これしかありません。多くの依存症者は、断酒しなくても「節酒」をすればよい、と考え、一時的にはお酒の量を減らそうとしますが、絶対にうまくいきません。なぜなら、「お酒に依存」支配」されているためコントロールは不可能で、何度節酒を試みてもすぐにまた酒浸りの生活に戻ってしまうからです。したがって、精神科病院で断酒を目的とした治療が必要です。特にアルコール離脱症状がある人や、通院では断酒ができない人など、入院治療が必要な場合も少なくありません。

入院では、離脱症状の治療、断酒のための教育などを行い、自分の現実を直視し、お酒に対する考え方を変え、断酒の決意を促すことを目標としています。さらに退院後は、通院治療・抗酒剤服用・自助グループ（断酒会）参加、という断酒の3本柱を中心に治療を継続していきます。特に自助グループでは、自らの酒害体験や、回復に向けての過程を語り合い、それらを共有することで、同じ問題を持つ仲間とともに断酒を継続する大きな力が生まれます。

当院でも、外来での相談やアルコールミーティング（自助グループ）など、アルコール依存症患者さんの治療を行っておりますので、お酒をやめたいのにやめられない方、依存症の家族に困っておられる方も、一度ご相談ください。



病棟紹介

執筆者：看護部 看護師 由野島 寿美子

北2病棟（精神療養病棟）



北2病棟は向陽台病院の北側の2階にあり、療養病棟としての役割を担っている60床の病棟です。主に長期入院の患者さんが多く、平均年齢も70歳前後ですが、急性期病棟から一応症状が治まったものの、その後も治療が必要な若い患者さんも転入されます。構造上の特徴としては、隔離、閉鎖、開放の3つのゾーンに分かれており、それぞれ患者さんの状態によって適切と思われる環境を提供しています。

病棟の役割としては、長期入院患者さんの精神・身体面の悪化予防（機能の維持・増進）と改善、そして社会復帰への手助けなどです。

前者は、症状も比較的安定されている反面、年齢的にいろいろな生活面の障害や合併症（例えば歩行が不安定になる・歩けなくなる、食事時のムセが多くなる・飲み込めなくなる、持病の悪化や合併症など）を生じている方も多く、事故につながってしまう危険が

あります。機能を維持・増進させるため、自分でできることはなるべく自分で行っていたり、援助が必要なところは悪化させないように、また改善できるように援助することを心がけています。

後者は、症状が安定しているにもかかわらず、長期入院によって社会での生活に踏み出せない、あるいは自信がない患者さんや社会での生活に不安をお持ちのご家族に、生活面の課題や必要な援助を一緒に考え、復帰への足がかりを提供できるようにしています。

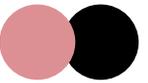
患者さんやご家族には主治医・看護師だけでなく、精神保健福祉士や作業療法士、臨床心理士、栄養士など多くの専門職種が関わっています。それぞれの専門性を発揮することはもちろん、その方にとって大切なものは何か、何を援助すれば『その人らしく』より良い生活を送っていただけるのか、チームで話し合いを行います。

日々の業務のなかでなかなか思い通りにいかなかったり、できていないこともありませんが、患者さんと接する上で大

切なことは、患者さんと医療者の立場だけでなく、『一人の人間と人間』として、『しっかりと見て、聞いて、感じて、考えて、かわりをもつ』ことであると考えます。今後患者さんやご家族の『こころ』を大切に、『不安な気持ち』に関心を向けながら援助を行いたいと思います。同時に関わっているスタッフが『援助するやりがい』をもてるような病棟になるよう、セルフケアも大切にしながら多職種で協力していきたいと思えます。



精神療養病棟・スタッフステーション



医事課のしごと

執筆者：事務部 医事課 小澄 英子



医事課は、総務課と構成される事務部（総勢19名）に所属しています。現在、7名のスタッフがあり、外来担当（4名）とクラークと呼ばれる入院担当（3名）にわかれて業務を行っています。

外来担当の中では、①受付 ②入力 ③会計担当にわかれています。

①受付担当は、患者さんの受付、保険証の確認や、総合受

付も兼ねているため、面会の方と来客者の応対をしています。病院に來られた方と初めにお会いする場ですので、笑顔でお迎えするように心がけ、ホスピタリティー満足度の向上を目指しています。

②入力担当は、カルテを見て診療内容を確認して計算をし、請求書を発行しています。

③会計担当は、外来はもちろん入院患者さんの医療費の会計を行っています。外来の診察後、待ち時間が長いとご意見をいただくことも

ありますが、診察の後の流れとして看護師が診療と処方内容の確認を行い、入力担当が計算をして請求書を発行しています。そのため、確認などで時間を取ってしまうことがあります



活の中で、入院費がいくらかかるか気になられると思いますが、病棟の担当のクラークがおりますので、お気軽にお尋ねください。

病棟で業務しているクラークは、南1病棟、南3病棟、北2病棟に配置されています。業務内容は、入院手続き、入院患者さんの医療費の計算、請求書の発行、お小遣いの管理、退院時の会計などを行っています。入院します。入院生活の中で、入院費がいくらかかるか気になられると思いますが、病棟の担当のクラークがおりますので、お気軽にお尋ねください。



が、できるだけお待たせしないように時間の短縮に努めているところです。

地域うつ病対策支援体制強化事業

リハビリテーション部 臨床心理士 濱本 晋也

向陽台病院では、熊本県精神科病院協会が県から受託した「平成23年度地域うつ病対策支援体制強化事業（精神科医療関係者研修会業務等）」に参加して、職員の研修に努めました。

年度末には、中島央先生・連理貴司先生をお招きし、講演会を開催しています。

うつ病と自殺、各種の依存症など医療従事者として知っておきたい常識や、病院が地域と一丸となつてどのように支えていく必要があるのか、院内外の連携などのお話をいただきました。中島先生の幅広い知識や、連理先生の穏やかで温かい雰囲気心がに残っています。

こもれびりレーイッセイ

● 第5回：リハビリテーション部 精神保健福祉士科 科長 岩井佑美

人と環境と関係性とエンパワメント

「人は一人では生きられない」とよく聞きますが、確かに私も多かれ少なかれ誰かの影響を受けたり、周りに影響を与えたりしながら生活をしているなあと感じています。精神保健福祉士というのは、ソーシャルワークのなかでも精神科領域に特化した専門職種になりますが、この「ソーシャルワーク」は個人だけではなく、まさにその周りの環境にも着目して、当事者と一緒に問題解決を図っていくことが特徴です。たとえば、福祉制度などを紹介して、生活環境を整えることもあります。それによって、できるだけ当事者が自身で問題解決する力を付けていくこと（エンパワメント）を目指していきます。

そのような仕事をしていると、どうしても自分自身の価値観と向き合わざるを得ない時が出てきます。「私は、どのように生きていきたいのか？」と。実際は、そんな大それたことを常に考えている訳ではありませんが、最近では、日々のあらゆることに流されるまま、私は断ることが苦手なので、増えるだけ増えてしまった荷物を抱えて、反省することもしばしばです。でも、その分さまざまな場所に顔を出す機会が増え、いろんな人たちと知り合いになり、その中で、助けたり助けられたりしていると気づきます。

荷物を抱えてばかりでは疲れてしまうので、整体を受けて体をほぐしたりとか、ゆっくり寝たりとか、人と話してストレス解消したりとか、それなりに対処はしています。

そういえば、この前大阪に研修に行ったときに、その地域に住むお世話になっている人に会って一緒に串カツを食べました。もちろんおいしかったのですが、何よりそこで話ができたことで元気が出てきました。やっぱり、人はつながりの中で生きていけると感じました。自分自身のエンパワメントも大切ですね！

▼次回予告 左座社会福祉管理部長にバトンタッチ



そよ風家族会 通信

地域連携室 精神保健福祉士

春木あゆ美

1月28日(土)にそよ風家族会を行いました。

今回は、ゆつくりご家族同士の交流を持ってもらうため、2時間たっぷり家族交流会としました。また、これまでは病棟やデイケアごとにグループ分けをしていましたが、今回は患者さんの年代ごとに分かれてもらいました。

1グループは10名程度で、最初は緊張されている様子でしたが、お茶やクッキーをいただいているうちに、緊張が解け、和やかな雰囲気になったようです。同じ年代だからこそ同じようなテーマが出され、「うちでも全く同じ!」と笑いが起きたり、「これからどうして行けばいいのか...」と涙ぐまれる方には、いろんなアドバイスがあったり、あっという間に時間が過ぎていきました。

今年度は時間を十分にとった家族交流会をすることがな

かったことと、初めて年代別のグループだったことで、まだまだ話し足りないと感じを持たれた方も多かったようです。

終わってみると、参加者は28名と今年度で一番多い数となりました。家族交流会は、やはりニーズが高い企画のひとつだなと実感しました。

来年度も年代別の交流会を企画していきたいと思っております。どうぞよろしくお願います。

次回の予定

「総会・家族交流会」

● 4月28日(土)午前10時

▼会場：リュミエール活動室

詳しくは

☎ 096-27217211

までお問い合わせください。

こもれびふらざ

向陽台病院の最新ニュースやお知らせなどを
お届けします。

向陽台病院フットサルクラブ

リハビリテーション部 作業療法士 宮崎 裕一



体育館が完成し、クラブ活動の一つとして職員間でフットサルを行っています。職種はさまざま、院長をはじめリハビリテーション部、看護部、事務部で交流

をもちながら月2回程度、爽やかな汗を流しています。部員登録数は25名で、みんな運動が大好きで

す。目的としては、健康促進、プレー上達など個々によってさまざまです。クラブ活動開始当初は部員のほとんどがフットサルの経験がなく、ボールを追うことに必死で、シユートもなかなか決まりませんでした。しかし、日々の努力と数少ない経験者の適切なアドバイスがあり、今では少しずつさまになったフットサルができているような気がします。まだ病院外での試合経験がないので、今後、他の病院や地域のクラブなどと交流試合ができたかと考えています。

寄付の報告

レクリエーション委員会 田上 慎也



平成23年12月27日(火)、クリスマス会、バザーの売り上げ37,420円を熊本市社会福祉協議会植木支所へ寄付しました。

就労継続支援B型事業所

「Worksみらい」のご紹介

社会福祉事業 居宅就労支援事業所 精神保健福祉士 阪本匡聡

就労継続支援B型事業所「Worksみらい」は、障がいによって通常の企業などで雇用されることが困難な方が利用される就労訓練施設で、平成19年4月に障害者福祉サービスとして、熊本県から指定を受けて開設しました。

当初は、仕事に就けない、就職を諦めていた方たちがほとんどでしたが、最近はいつかは就職して、今よりももっと豊かな生活をしていこう」と利用される方も増えてきました。

月曜～土曜の8時30分～16時30分の間で、一日当たり約13名が利用されています。

作業は、環境美化・印刷・喫茶の大き

く3つに分けられます。

環境美化は、屋外で作業をすることが多く、向陽台病院内外の清掃や、園芸、洗車などを行います。今年度からは施設外就労といった、一般事業所での職業体験を計画しています。

印刷は、書類のコピーや名刺の作成などが主な業務です。外部からの注文も多くなり、近隣の事業所などから、名刺やチラシ、年賀状や垂れ幕の依頼などが増えてきました。

喫茶は、病院の一角にある、喫茶室「向(さき)」で、ウェイター、ウェイトレスの仕事をしています。最近、病院内への移動販売を開始し、利用者だ

けで販売できるようになりました。

このような作業やミーティングをとおして、報告、連絡、相談の練習や、共に達成感を味わうこと、仲間同士で支え合いながらステップアップしていくことが目標です。昨年度は5名の方がステップアップされ、そのうち3名の方はA型事業所へ、2名の方が企業に就職されました。

我々スタッフとしても、生産的な活動をしながら、サポートをしていくと共に、利用者の皆さんがより良い生活を送っていただけるように、一職人としてモデルとなっていければと思っています。

診療のごあんない

- 診療科目：精神科・心療内科・児童精神科
- 特殊外来：児童思春期（発達障害）外来
もの忘れ外来
- 病床数：220床
- 外来診療時間
【月～金曜日】 午前 9時40分～12時
午後 2時30分～4時
【土曜日】 昨年9月から休診になりました

祝日も平常どおり診療しています

交通アクセス

- 産交バス 向坂バス停から徒歩3分
 投刀塚バス停から徒歩3分
-
- 車  植木ICから10分
-
- JR  植木駅下車 → タクシーで6分

アクセスマップ



初めて受診される方へ

当院は**予約制**です。
初めての方は、**地域連携室**へお電話ください。

☎ **096-272-5250**

電話受付時間

【月～金曜日】 午前9時～午後4時30分
電話の際、①お名前 ②相談内容 ③連絡先 などをおうかがいし、予定の日時を決めます。

当日の所要時間は問診や診察、検査などを含め、**2時間**程度とお考えください。

動向を探る 向陽台病院を利用されている患者さんの動向を掲載しています。

集計月	外来延数	新患者数	1か月ごとの入退院者数	
			入院	退院
2011年 12月	2,488	47	35	36
2012年 1月	2,323	40	39	36
2012年 2月	2,560	52	45	32

(単位：人)

「こもれび」に関するご意見・感想をお待ちしています！



私たちは「こもれび」をとおして、皆さまに役立つ情報をお届けできればと作成しています。皆さまの率直なご意見を聞かせください。(向陽台病院 広報委員会)

編集後記



新しいスタッフが加わり、新年度がスタートしました。病院の桜は満開で心が癒されます。本年度も広報スタッフ一丸となって知恵を絞り出し、地域の皆さまにさまざまな情報を発信していきたいと思えます。これからも広報誌「こもれび」をよろしくお願ひします。

(瀨本康豪)